二〇二二年一〇月八日

海に向く敦盛塚や鳥雲に　わかば
三日月に吊られしごとく一つ星　素秀
我が影の先行く彼岸花の土手　なつき
雑木山幾許団栗共和国　むべ
名水にもぎたて檸檬ひと搾り　むべ
山麓の過疎灯ともりて秋闌くる　愛正
野仏の供花に誘はれしじみ蝶　ぽんこ
天空の線画となりて鳥渡る　愛正
溶岩跡の清流風の音は秋　こすもす
芒原声遠ざかるつづら坂　素秀
秋の雲三角点は国境　わかば
堆き樟の落葉に力石　ぽんこ
走り根の多き尾根道木の実落つ　わかば
一末寺鐘楼に吊る柿すだれ　なつき

毎週句会秀句・みのる選・二〇二二年一〇月九日